Vol.．243　スローライフ　ツーリズム
ゆっくりのんびり　広域周遊観光を　（平成24年11月9日）

房総への旅は、都会の喧騒から逃れて、疲れた心や体を休め、豊かな大自然に触れ、ゆっくり、のんびり人間本来の生き方に出会う喜びを求めている人達にぴったりの土地風土であります。都会人と言われる人達のほとんどは戦後、地方から出て来られた人達であり、その家族であります。南房総は旅の拠点となる有名な神社、仏閣、城、城下町、旧跡、温泉等中心とした大集落はありませんが、孤立と疎外感、コンクリートとアスファルト、金属的な騒音に住む都会人にとっては、縄文、古代、中世、江戸の伝統文化を残している房総。幼い日の静寂、ぬくもりのある田舎の人々のふれあい。これが房総観光の基本と思います。

それにしても房総は古くからの伝統を持つ神社仏閣は１，０００ヶ社以上もあります。県内に訪れる観光客はディズニーランド、幕張メッセの客凡４，６００万人以外の凡そ１億人は神社仏閣へと観光客は集中しております。

清和の三島大社の改築竣工も楽しみな一つであります。

旅は先ず食にありと言われますが、今年「食の味ともてなし」日本一と評価された四国高知を訪ねて参りました。まず中心街の朝市は関東と違って地元のひなびた野菜、山菜干魚が多く、商札には皆「山の柿」「山の芋」「山のみかん」「山の・・・」とすべて山という「冠名」がついており、小粒なものばかりでした。私は珍しい筍の様な山芋？をおみやげに買ってきましたら、翌朝「あの芋大変おいしかったよ！！」とわざわざの電話がありました。

昼は名物のカツオの叩き、夜は鯨の刺身で一杯となりましたが、君津の味になれた私達にとって　うまい！！と言う食感はありませんでした。だるま夕日が沈む室戸岬あたりで、遍路の人達何人かとお会いしましたが、四国の人達は何百年も道をゆく遍路の方々をもてなして来た。「他人への心使いは今や血脈となって旅の人達への心配りは日本一の評価を受けている。」と尾崎知事さんは言われておりました。旅は「食とおもてなし」で決まるようですね。

日本の経済は世界の中で孤立感を深めております。また地方経済もデフレ脱却が出来ず、このままだと卸売業、小売業、飲食業の中小個人企業は２０％位倒廃業となるだろうと経済紙が予想しております。

四国高知県は人口70万人、観光入込人口目標400万人。千葉は人口凡600万人、観光入込人口14,000万人。かずさ４市の観光入込人口は凡そ1,200万人＋アウトレット等７００万人。安房1,300万人です。

かつて房総は海も農も一次産業は日本一と恵まれており、他人に頼らず生きてきましたが、今その一次産業が弱小化し地場産業も併行しております。幸い次の期待産業と言われる観光資源、立地条件にはこの地は極めて恵まれております。とりあえず観光だけでも市町村の境、垣根をとり払って広域周遊観光としなければ房総の良さは発揮できない、混雑な日帰りコースとなります。まずマップを１枚にして市町村の連帯感を作り意思決定を決断できるチームワークが必要です。観光の一人のＧＤＰは１万円です。雨にも風の日にも負けない催し物の企画も必要です。